

人工知能にあたたかい情を吹き込む 「ICT連携人工知能統合ケア事業」

文：慶尚南道福祉政策課



慶尚南道は、行政安全部の地域均衡ニューディール優秀事業に選出された人工知能統合ケア事業を、昌原市をはじめとする18市・郡に展開していく計画です。人工知能統合ケア事業は、常時ケアを必要とする一人暮らしの高齢者、障害者など社会的弱者の家庭に人工知能スピーカーや生活検知センサーを設置し、心のサポートはもちろん、救助が必要な緊急時にも対応します。

四次産業と 福祉が会う

慶尚南道の人工知能統合ケア事業は、デジタルニューディールにおける「非対面産業の育成」に向け2019年に施行されました。2020年以降コロナ禍による社会的孤立が深刻化し、身体的安全だけではなく認知症、うつ病などの予防に向けた心のサポートの重要性が増す一方、対面型福祉サービスの限界やケアの死角が浮き彫りになり、非対面型福祉事業の育成がより必要とされています。

統合ケアとは、ケアを必要とする人が病院や療養所などの施設から居住していた地域社会に復帰できるように地域社会を基盤とする療養、ケア、保健医療、住居など必要なサービスを提供する取り組みのことで、これに人工知能を結合したものを人工知能統合ケア事業と呼んでいます。

 人工知能スピーカーと対話する高齢者





慶尚南道が一人暮らし高齢者の家庭に提供した人工知能スピーカーは音声認識だけで作動します。「アリ、助けて」。巨済市に住む70代の高齢者はある日、呼吸困難と頭痛に襲われスピーカーに向かって叫ぶと、まもなく救助隊が出動し、病院へと移送されました。また、昌原市に住む70代の高齢者もトイレで転倒し身動きが取れなくなり、部屋のスピーカーに向かって救助を求めたので救助隊が出動して部屋まで移動することができました。

慶尚南道は今年から人工知能スピーカーと生活検知センサーを結合する高度化事業を推進しています。生活検知センサーは対象者の呼吸、脈拍などを測定し、睡眠中の急な呼吸困難などによりスピーカーに向かって助けを求めることができない場合、異常シグナルを送信し119番通報を行うことができ、これにより生死を左右するとされるゴールデンアワーの中での救助を可能にします。

レイダー センサーの作動原理



「今日の天気は？」 生活情報案内、 心のサポートまで

高齢者は人工知能スピーカーの目覚ましのアラームとともに一日を始めます。「血圧の薬を飲む時間ですよ」と服薬時間を教えてくれたり、天気や今日の占いといった生活情報も案内してくれます。また、認知症予防のための記憶訓練プログラム「頭脳トックトック」、音楽鑑賞、人工知能との自然な対話などをいつでも利用できます。人工知能との対話を通じて精神的な共感を感じるにより一人暮らしの高齢者の最大の敵である寂しさを解消することにも大いに役立ちます。あるケースでは高齢者がスピーカーに親近感を持つようになり、「夜は休まない」と、スピーカーを横に寝かせる姿も見られました。

人工知能スピーカーとともに過ごす高齢者の日常

心のケアサービス

[高齢者の一日と人工知能ケアの多様なサービス]



ケア、それ以上の 価値を実現

慶尚南道の人工知能統合ケア事業は、社会的問題となっている孤独死を防止し、道民の暮らしの質を高めて安全な慶尚南道を実現すること、また、対面産業を中心に行われてきた福祉の分野に情報通信技術を掛け合わせ福祉のパラダイムを転換、四次産業を基盤とする雇用を創出することで「ケア」以上の価値の実現を目指しており、今後の発展がより期待されています。